



<https://twitter.com/fctokyoofficial>



<http://line.me/ti/p/@fctokyo>



<https://www.instagram.com/fctokyoofficial>



<https://www.tiktok.com/@tokyodorompa>



<https://www.youtube.com/user/fctokyochannel>



<https://www.facebook.com/fctokyo>



<https://www.linkedin.com/company/fctokyo/>

<https://www.fctokyo.co.jp>



F

C



ACTIVITY REPORT 2025



T O K Y O



MANIFESTO SLOGAN

マニフェストとスローガン

千年の魂が宿る、歴史の街なみ。未来の姿が浮かび上がる、喧騒の都心。いろいろな表情を見せる東京の地を、ぼくたち、私たちは、前へ前へと進んでいく。ボールをつなぐ。前に。その先に。人から人へ、そして次の世代へ。原動力は、東京が放つ強烈なエネルギー。批判を恐れず、新しいことを試そう。国内の、世界の、あらゆる知識と経験を、この東京の地に集結させて。どんなことだって、必死でやるから、面白い。挑戦と試行錯誤が生み出すエンターテインメント。ピッチの上で、ピッチの外で。東京が熱狂。



TOP MESSAGE ごあいさつ

東京が熱狂

こんにちは。FC東京の代表の川岸滋也です。FC東京は、東京都をホームタウンとし、スポーツの力を東京中に、そして日本中に届け、日本を代表するクラブをめざして活動しております。スローガンは『東京が熱狂』。FC東京のサッカーで、スタジアムに、ホームタウン東京に熱狂を届け、活力と勇気を与える存在でありたいと願っています。

2025シーズンは、平均来場者数約31,500人と2年連続で3万人を超え、シーズンを通じて延べ60万人の方にスタジアムにお越しいただきました。近年のJリーグの中では常に2〜3番目の来場者となっており、多くのファン・サポーターに支えられています。FC東京のホームスタジアムである味の素スタジアム（調布市）を中心としながら、より多くの東京都民にFC東京の試合にお越しいただけるよう、国立競技場（新宿区、渋谷区）での試合開催を定期的に行っております。

FC東京は、クラブ創設以来、東京都をホームタウンとして活動を続けてまいりました。東京都と締結したワイドコラボ協定や、各自治体との連携協定等を基に、東京都内各地において、スポーツやサッカーに限らず、様々な取り組みを行っております。特に、株主となってくださっている府中市、三鷹市、調

布市、小平市、西東京市、小金井市からは創立期より力強いご支援をいただいております。私たちの活動基盤となっております。また、味の素スタジアムがある京王線沿線を中心に、活動エリアとその内容は着実に広げることが実現しており、サッカースクールの活動も含めると、12区11市および島しょ部に広がっております。私たちFC東京は、ホームタウン東京都において、より広く深く活動し、都民のみなさまに、また地域に貢献できるよう一層努力をしております。

FC東京の活動において、パートナーの存在は欠かせません。クラブの母体となった東京ガス様をはじめとした関係企業の長年にわたるサポートにより、このクラブの基礎が創り上げられました。そのサポートは今も継続いただいております。感謝の念に堪えません。また、90社近くのパートナーに多方面に渡りサポートをいただいております。私たちFC東京は、パートナーのそれぞれのニーズや課題に着目し、パートナーのみなさまとともにそれに取り組んでまいります。

Jリーグは、非常に暑い夏の期間を少しでも避ける目的もあり、2026年に秋春制にシーズン移行をします。昨今の暑さはサッカーを行うことすら許されない水準になってきました。FC東京

のSOCIAL STATEMENT『わたしたちのくらしの未来につながるゴールを』の具体的なアクションとして、気候変動への取り組みや発信に努め、未来の子どもたちにサッカーができる環境を確保していくことにも取り組んでいきます。

改めまして、日頃からのファン・サポーター、パートナー、そしてホームタウン、様々なFC東京に関わっていただいているみなさまの応援、ご支援に誠に感謝いたします。みなさまにとっての日常に、FC東京が欠かせぬ存在となれるように、そして目標であるJ1リーグ優勝に向けて、クラブ一丸となって取り組んでまいります。

東京フットボールクラブ株式会社
代表取締役社長

川岸 滋也



MISSION ミッション

FC東京は首都・東京をホームタウンとして、『スポーツの力』を東京中に、そして日本中に届け、日本を代表するクラブをめざします。

- 1 フットボールを中心に、東京のスポーツ人口の拡大に寄与し、誰もが日常的にスポーツに親しみ、楽しむことのできる社会を実現していきます。
- 2 スポーツの魅力の人々に伝え、その心を動かすことによって、一人一人の毎日が少しずつ豊かに彩られる世の中をめざしていきます。
- 3 クラブが発信するスポーツの魅力が、人と人、想いと想いを繋ぐ媒介となり、人や地域のネットワークに新たな連鎖を生み出し、コミュニティのさらなる発展に寄与していきます。
- 4 社会や地域と連携・協力を図り、未来の担い手である青少年たちがスポーツを通じてその可能性を広げることができる世界を創造していきます。

VALUE バリュー

最前線

仕掛ければ、なにかが起きる。首都・東京の名を背負うに相応しいクラブであるためにFC東京は常に自ら動き、仕掛けていくことを意識します。能動的に動き、新しい道を切り拓く。人とアイデアが集うこの東京から、大きなエネルギーを放ちます。

クリエイティビティ

変容する未来にも、トップランナーであるために。既成概念にとらわれない発想力で、FC東京は進化を続けます。リスクを恐れず、批判を恐れず、大胆に新しいことを試し続けること。そのピッチの上で、誰も見たことのないものが生まれるように。

多様性

歴史と近未来が隣接し、伝統文化と最新テクノロジーが共存する東京。全国各地、そして世界各地から人々が行き交うクロスロード。その東京を舞台に、FC東京は多様性を誇るクラブであり続けます。先入観にとらわれず様々な分野から卓越したものを集め、その化学反応によって、あっと驚くエンターテインメントを生み出します。

可能性

人口減少が続く日本にあって、東京は年少人口が増え続けている数少ない地域のひとつです。休むことなく成長を続ける東京。その潜在力は無限大。常に新しい才能が生まれ、首都を牽引する原動力となっていく。FC東京もまた、現状に満足することなく無限の未来を模索します。明日の担い手たちが夢を見続けられる世の中のために。

COMPANY PROFILE 会社概要

会社名	東京フットボールクラブ株式会社 TOKYO FOOTBALL CLUB Co., Ltd.
創立	1998年10月1日(都民の日)
主な事業	1. プロサッカーチーム「FC東京」 (1999年よりJリーグディビジョン2に加盟)の運営 2. サッカースクールおよびサッカーの普及活動 3. チームのオリジナルグッズの製作・販売
資本金	1,762,000,000円
総発行株式数	46,740株
株主	計333社
主な株主	(株)MIXI、東京ガス(株)、三菱商事(株)、ENEOS(株)、清水建設(株)、(株)さらばし銀行、三井物産(株)、東京メトロポリタンテレビジョン(株)、東京電力ホールディングス(株)、横河電機(株)、(株)プロ・フィットスポーツ、(株)みずほ銀行

※2025年11月30日時点



2025シーズンの振り返り

2025シーズンは、新監督として松橋力蔵氏を招聘し、クラブが掲げるフットボールフィロソフィー『ワンモアゴール』の実現に向け、より攻撃的かつ主体性を持ったプレースタイルの確立をめざしました。攻撃指標（ゴール期待値、相手陣保持時間、ペナルティエリア進入数etc）の向上を重視し、得点機会の創出を最大化し、多く得点を奪うことをチーム戦略の中心に据えてシーズンに臨みました。

戦力補強においては、サガン鳥栖から2024シーズンにJ1リーグ14得点を記録したマルセロ ヒアン選手を獲得したほか、アカデミー出身で欧州にて実績を積み元日本代表としても国際経験を有する橋本拳人選手、またパリ五輪代表として成長を遂げた木村誠二選手（期限付き移籍から復帰）および佐藤恵允選手らが加わり、攻守両面において厚みと競争力のある陣容を整えてシーズンをスタートいたしました。

シーズン開幕戦は勝利を収め、順調な滑り出しとなりました。しかし、序盤戦においては負傷者の増加に加え、戦術および新システムの浸透に想定以上の時間を要し、思うように勝点を積み上げることができない状況が続きました。選手・スタッフは何とかこの状況を打開しようと戦い続けましたが、徐々にチームは自信を喪失し、J2降格圏に迫る厳しい局面を迎えることとなりました。

そのような状況下において、クラブワールドカップ開催年となる2025シーズンは特例として6月に追加登録ウインドーが設けられ、選手補強の機会が生まれました。この機会を最大限に活用し、室屋成選手、アレクサンダー ショルツ選手、キム スングユ選手、長倉幹樹選手を獲得し、戦力の強化を実施。これらの補強は即座に成果を生み、併せて採用した4バックへのシステム変更と相まってチーム全体の機能性が大きく改善しました。攻撃面では運動性が高まり、守備面でも安定感を取り戻すなど、チームパフォーマンスが短期間で著しく向上いたしました。

その結果、天皇杯においては11年ぶりのベスト4進出を果たし、タイトル獲得に迫る戦いを展開することができました。またリーグ戦においても、6月以降の後半戦に限れば上位を争う成績を示し、最終的には11位と前年度より順位こそ下げたものの、内容面において確かな前進と成長を確認できたシーズンとなりました。

2025シーズンは、困難な状況を経験しながらも、クラブが掲げる『ワンモアゴール』の理念を追求し続け、その方向性の確かさを裏付ける成果を得た一年間であったと感じております。シーズン後半に示した戦いぶりは、2026シーズンへ向けた確かな基盤となるものであり、今後のさらなる発展に向けて重要な一歩となったものと確信しております。そして、その成果を必ず2026シーズンの結果に結び付けていきたい。その熱い想いをもち続け、ピッチで表現できるように努めてまいります。

FC東京 ゼネラルマネージャー 小原 光城

2025 順位・戦績

2025 明治安田 J1 リーグ

順位	クラブ名	勝点	勝	分	敗	得点	失点	得失点差
1	鹿島アントラーズ	76	23	7	8	58	31	27
2	柏レイソル	75	21	12	5	60	34	26
3	京都サンガF.C.	68	19	11	8	62	40	22
4	サンフレッチェ広島	68	20	8	10	46	28	18
5	ヴィッセル神戸	64	18	10	10	46	33	13
6	FC町田ゼルビア	60	17	9	12	52	38	14
7	浦和レッズ	59	16	11	11	45	39	6
8	川崎フロンターレ	57	15	12	11	67	57	10
9	ガンバ大阪	57	17	6	15	53	55	-2
10	セレッソ大阪	52	14	10	14	60	57	3
11	FC東京	50	13	11	14	41	48	-7
12	アビスパ福岡	48	12	12	14	34	38	-4
13	ファジアーノ岡山	45	12	9	17	34	43	-9
14	清水エスパルス	44	11	11	16	41	51	-10
15	横浜F・マリノス	43	12	7	19	46	47	-1
16	名古屋グランパス	43	11	10	17	44	56	-12
17	東京ヴェルディ	43	11	10	17	23	41	-18
18	横浜FC	35	9	8	21	27	45	-18
19	湘南ベルマーレ	32	8	8	22	36	63	-27
20	アルビレックス新潟	24	4	12	22	36	67	-31

ACL出場チーム J2降格枠

2025 Jリーグ YBCルヴァンカップ

2025年3月20日(木祝)	1回戦	ロートF	FC東京 1-0 奈良クラブ
2025年4月16日(水)	2回戦	NACK	FC東京 3-1 RB大宮アルディージャ
2025年5月21日(水)	3回戦	レモンS	FC東京 0-1 湘南ベルマーレ

天皇杯 JFA 第105回全日本サッカー選手権大会

2025年6月18日(水)	2回戦	味スタ	FC東京 3-1 ツエーゲン金沢
2025年7月16日(水)	3回戦	クラド	FC東京 2-0 大分トリニータ
2025年8月6日(水)	ラウンド16	ヨドコウ	FC東京 2-1 セレッソ大阪
2025年8月27日(水)	準々決勝	埼玉スタ	FC東京 2-1 浦和レッズ
2025年11月16日(日)	準決勝	国立	FC東京 0-2 FC町田ゼルビア

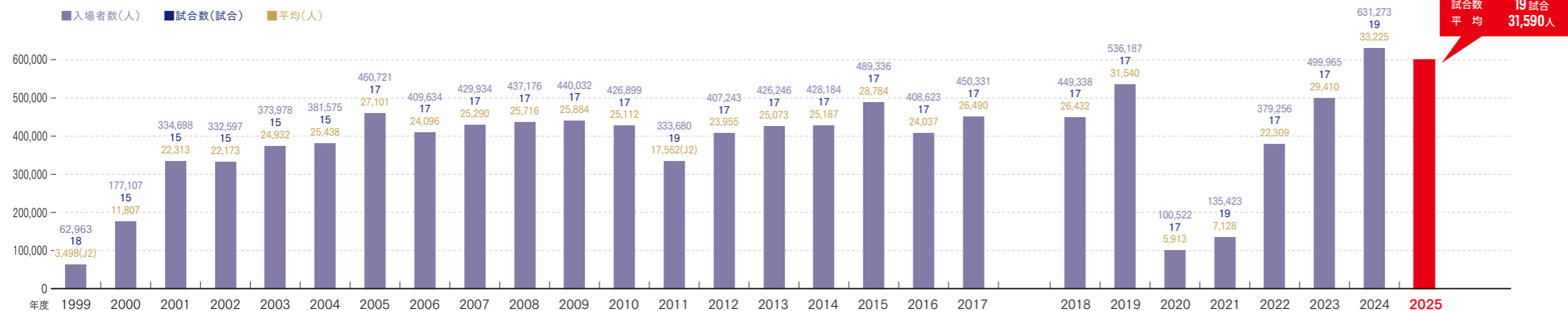
TITLES

主な獲得タイトル

- ▶ 2004 Jリーグヤマザキナビスコカップ 優勝
- ▶ 2009 Jリーグヤマザキナビスコカップ 優勝
- ▶ スルガ銀行チャンピオンシップ2010 優勝
- ▶ 2011 Jリーグディビジョン2 優勝
- ▶ 第91回 天皇杯全日本サッカー選手権大会 優勝
- ▶ 2020 JリーグYBCルヴァンカップ 優勝



来場者数推移 VISITORS DATA



チームマスコット

TEAM MASCOT
「東京ドロンプ」

1998年10月1日、港区麻布狸穴町(まみあなちょう)で生まれる。六本木と東京タワーのほぼ真ん中に位置する狸穴町、いわゆる生粋の都会っ子である。遊び場はもちろん噴水の素敵な狸穴公園。知らぬ間にパッと現れ、ドロンプといなくなることから、いつしか仲間から「東京ドロンプ」と呼ばれるようになった。



POLICY

アカデミー活動の方向性



アカデミーダイレクター
浅利 悟

東京のアカデミーでは“東京を熱狂”させられる選手、そして世界で活躍できる選手を輩出することをめざし、クラブの未来を担う選手の育成に取り組んでいます。また、クラブのバリューに基づき、各学年、選手毎に寄り添った指導プログラムを展開し、人間力を育むことにも力を注ぐことで、サッカー選手としてだけでなく、社会に出て主体性を持って活躍できる人材の育成にも取り組んでいます。一貫したクラブフィロソフィーのもと、トップチームと連動しながら選手一人ひとりの成長を注視しつつ、多角的に選手をサポートしています。選手には、フットボールスタイルである『+1Goal(One More Goal)』同様に、失敗を恐れず常に次に向かってチャレンジし続ける姿勢を求め、主体的なプレー・行動を習慣化できるよう、日々のトレーニングからスタッフが一つとなって成長を支えています。2026/27シーズンから創設される『U-21 Jリーグ』への参加により、選手育成のスピードをさらに加速させ、より多くのアカデミー出身選手がトップチームのピッチで躍動することをめざしていきます。

ACADEMY アカデミー紹介



- 高円宮杯 JFA U-18サッカープレミアリーグ 2025 EAST 3位
- 高円宮杯 JFA U-18サッカーリーグ2025 東京1部 5位
- 第49回 日本クラブユースサッカー選手権(U-18)大会 3位



- 2025年度関東ユース(U-15)サッカーリーグ2部Bリーグ 3位
- 2025年度関東ユース(U-13)サッカーリーグ1部Aリーグ 3位



- 2025年度関東ユース(U-15)サッカーリーグ1部 9位
- 2025年度関東ユース(U-13)サッカーリーグ1部Bリーグ 4位
- 第39回 日本クラブユースサッカー選手権(U-15)大会 ベスト32

2025海外遠征

- U-18**
 - ▶ アメリカ遠征(4月10日~4月22日)
 - ▶ フランス遠征(6月3日~6月11日)
 - ▶ 短期留学 ポルトガル SLベンフィカ(11月8日~11月18日)
- U-15 深川**
 - ▶ フランス遠征(4月14日~4月23日)
 - ▶ 韓国遠征(12月12日~12月17日)
- U-15 むさし**
 - ▶ スペイン遠征(6月15日~6月24日)
 - ▶ タイ遠征(11月20日~11月27日)



NATIONAL TEAM 年代別日本代表



老若男女・スポーツ経験問わず誰もが気軽にサッカー・フットサルにふれあえる機会を提供し、スポーツの魅力を広める活動を行っています。

TOKYO SCHOOL MAP

FC東京サッカー・フットサルスクール
FC東京サッカー・フットサルスクール アドバンスクラス
FC東京サッカー・フットサルスクール 派遣校

サッカー・フットサルスクール
都内26箇所(スタッフ派遣校10校を含む)で行われている『サッカー・フットサルスクール』には、約4,600名の子供もたちが在籍しています。個人の技術・戦術面でのレベルアップはもちろん、あ・お・あ・か(挨拶・思いやり・諦めない・感謝)を合言葉に、自ら考え取り組む力や仲間と協力する力も育みます。

サッカーフェスティバル・サッカークリニック



今年度も親子・小学生・女性・障がいのある方など様々な方を対象に、サッカーの楽しさや喜びに触れることのできる機会を提供しています。地域とのつながりを大切にしながら、参加者一人ひとりが安心して学び、身体を動かすことの心地良さを感じられるプログラム作りに取り組みました。

スマイルキャラバン・キッズ巡回



教育委員会や東京都サッカー協会等と連携して、普及部コーチが学校や園を訪問し実施しました。サッカーだけでなく、自立心の成長が感じられる体験授業です。他にも子どもたちの夢や目標を考えてもらうきっかけとなるキャリア講話『夢授業』を開催しました。

おとな・女性向けのサッカー・フットサル教室



大人を対象としたサッカー・フットサル教室や、女性が運動を気軽に始められる場として女性限定のサッカー・フットサル教室などを開催しました。またスクールでもガールズ・レディースクラスを設けています。年齢や性別を問わずたくさんの方との出会い・交流の場となりました。

スクールイベント



FC東京サッカー・フットサルスクールでは、海外クラブや他Jリーグクラブのスクールとの交流戦、各種ホームゲームイベントを実施しました。Jリーグクラブならではの機会を提供しています。

指導者講習会



指導者のみなさんや保護者の方を対象にした講習会を開催しました。大人にできることを見つめ直す機会として、子どもたちが安心していきいきと成長できるような環境作りを寄与しています。

STADIUM EVENTS / GOURMET

スタジアムイベント・グルメ



東京ドロンパの
パフォーマンス

3月の湘南戦では東京ドロンパが縦横無尽にスタジアムに出没するイベント、『東京ドロン!っぱっDAY』を開催しました。その他にも『2025 TOKYO DOROMPA BIRTHDAY EVENT』を開催し、東京ドロンパのパーサードステージやエイジック様のチアパフォーマンスチームとダンスパフォーマンスを行いました。

STADIUM EVENTS



ゲストの来場

2025シーズンのホーム開幕戦には、長州力さんに来場いただきスタジアムを盛り上げていただいた他、『Fantastics from EXILE TRIBE』さんや、明治安田Jリーグ 2025シーズン応援ソング『For Decades』を歌唱している『Little Glee Monster』の皆さんや、よしもと芸人のみなさんに来場いただきスタジアムを盛り上げていただきました。



国立競技場での試合開催

2025シーズンは国立競技場で3試合を行い、様々な演出や、多くのアーティストの方に来場いただき国立競技場を熱く盛り上げていただきました。



FC TOKYO
FAN COMMUNICATION DAY
presented by JOYSOUND



11月2日(日)にファン・サポーターが選手とふれあうことができるイベントを味の素スタジアムにて開催しました。SOCIO・OFFICIAL MEMBERSHIPの会員を中心とした約4,000名のファン・サポーターのみなさまにご来場いただき、サイン会や選手とのふれあいサッカーなどを通して、たくさんのコミュニケーションをとることができました。また、JOYSOUNDのカラオケ機能を使った選手カラオケ企画を実施し、選手による歌唱が披露されるなど、たくさんの方々に楽しんでいただきました。

AO-AKA PARK 青赤パーク supported by JOYPOLIS



青赤パークを活用したイベント

今年も青赤パークではファン・サポーターのみなさんが楽しんでいただけるような様々なイベントを開催しました。女性を中心としたファン・サポーターのみなさまに向けたイベント『TOKYO GIRLS DAY』を初開催したほか、家族みんなで楽しめる『TOKYO FAMILY DAY』や、『ブラジルフェスタ』など、多くの方々に喜んでいただけるイベントを開催しました。



子ども向けアトラクションの設置

毎試合、楽しいアトラクションが登場し、試合前にお子さまが存分に楽しめる空間づくりをしました。暑い夏には『青赤ウォーターパーク』を初開催し、笑顔がふれるイベントとなりました。

青赤パーク supported by JOYPOLIS での食フェス開催

2025シーズンでは、試合のチケットを持ってなくても、誰でも参加ができる楽しいイベントや催しを多数実施しました。毎試合でグルメイベントを実施し、『子ども向けフード』や『ブラジルフード』など、マッチイベントと連動したイベントも行いました。毎年人気の『BEER FESTIVAL』では、クラブオリジナルビール第3弾の『FC TOKYO PALE ALE』のお披露目をはじめ、さまざまなクラフトビールを楽しんでいただきました。また、青赤パークに出店した店舗を対象にした投票企画『スタグル東京グランプリ』では、来場者のみなさまから選出されたスタグルが最終日に集合し、選りすぐりのグルメが楽しめる特別な1日を創出しました。



STADIUM GOURMET

オリジナルグルメの開発

クラブオリジナルのグルメを多数開発し、15種類の新商品を販売しました。観戦のお土産にもぴったりな『東京ドロンパかためきバウム』(カタヌキヤ 銀座本店)は、そっと型抜きして一口ずつ楽しめるスイーツとして、幅広い世代に愛される人気商品になりました。さらに、東京都内の老舗店舗とのコラボレーションも実施し、『東京ドロンパかためき煎餅』(麻布十番かためき煎餅)、『東京ドロンパ瓦煎餅』(銀座 松崎煎餅)、『東京ドロンパかりんとう』(かりんとう ゆしま花月)など、魅力的な商品を次々と展開しました。クラブならではのオリジナル性と地元愛を融合させたラインナップで、来場者に新しい楽しみを提供しました。



選手コラボグルメの展開



来場者のみなさまにさらなる楽しみをお届けするため、選手コラボグルメを多くの売店で展開しました。FC東京特設グルメ売店では『室屋成選手コラボグルメ 3種のお肉と夏野菜! BBQ弁当』や『キム スングウ選手コラボグルメ 勝利のピンパン弁当』が販売され、売り切れ続出の人気商品となりました。さらに、イベント限定メニューとして、『TOKYO GIRLS DAY』では同学年4選手による『東京あんバタードローナッツ』、『ブラジルフェスタ』ではマルセロヒアン選手の『コシーニャ』が登場し、スタジアムならではの特別な味がイベントの楽しみを一層盛り上げました。



STADIUM ACTIVATION

スタジアムイベント活性化への取り組み

2025シーズンより味の素スタジアム様のご協力を得て、ファン・サポーターのみなさんのさらなるコミュニティの創出と、FC東京を知らない新たなお客様との接点を作るべく、試合日以外のスタジアムイベントの活性化に取り組んでおります。



京王電鉄 presents 味スタナイトヨガ

味の素スタジアムの夜景と静寂の中、呼吸を整えながら行う、どなたでも参加可能な無料の屋外ヨガイベントを夏に2回開催しました。普段は数多くの熱狂を生み出すピッチで、寝転びながら身体を伸ばしたり、裸足で心身の緊張をほぐし、深いリラクゼーションを感じる機会に、たくさんの方にご満足いただきました。また、記念すべき第1回目の講師はホームタウン府中市の大使(武蔵国 府中大使)を務める女優でヨガインストラクターの松本莉緒さんにご登壇いただきました。特別な場所で夜風に吹かれながら行うヨガを通じて、日ごろの緊張やストレスを開放する機会を提供するとともに、スタジアムの新たな一面を発見することができました。



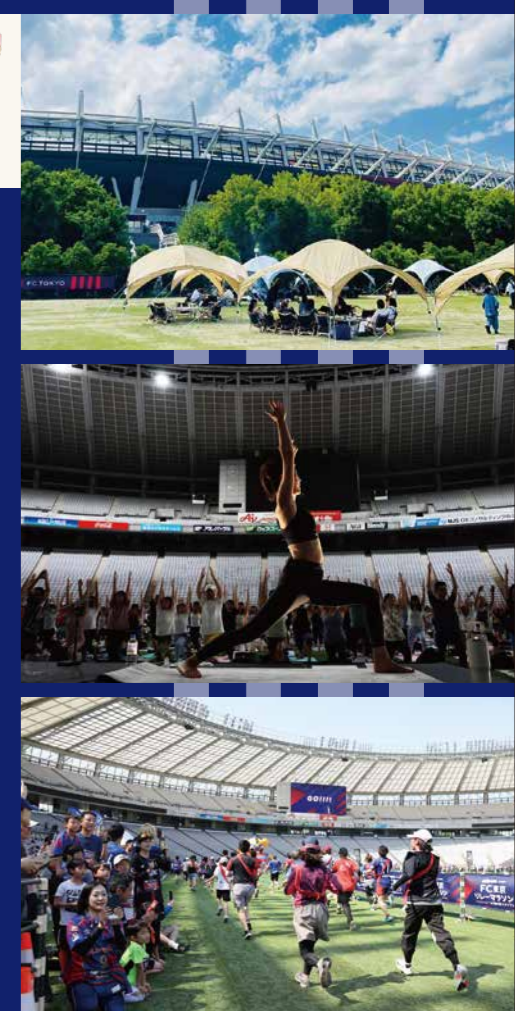
アミノバイタル® presents FC東京リレーマラソン in 味の素スタジアム

チームでタスキを繋いで走るマラソン大会で、一人の走る距離や回数、順番は自由、上級者も未経験者も一緒に走ることができるランニングイベントを春に開催しました。ご友人やご夫婦、会社仲間といったグループや、未就学児でも保護者と一緒楽しめる『親子ラン』の開催など、さまざまな層の方がそれぞれ楽しく汗を流しました。東京ドロンパやクラブOBによるトークイベント、大抽選会、DJパフォーマンスなども行い、大変盛り上がる一日となりました。



FC東京 味スタBBQ

味の素スタジアム(投てき練習場)を活用し、『天然芝×青空』の解放感を活かした屋外BBQイベントを春(16日間)と秋(20日間)に開催しました。試合の有無にかかわらず多くのファン・サポーターのみなさん、また、BBQファンの方々にお楽しみいただきました。心地よい風を感じながら美味しいお食事が楽しめる特別な体験を提供いたしました。



FC TOKYO SOCIAL STATEMENT

わたしたちのくらしの未来につながるゴールを

もっと前向きなエネルギーがあふれる街に。
 もっとあたたかいサポートに包まれる街に。
 もっとクリーンな空気や自然に恵まれた街に。

誰もが住みやすく、生きがいに満ちた、より良い世の中をめざし、
 FC東京は社会のハブとなり、ファン・サポーター、地域・企業などたくさんの仲間と連携し、
 様々な活動を推進/サポートしていきます。

老若男女の健康づくりへのアシスト。地域コミュニティを活性化するアシスト。
 クリーンで美しい環境を守るためのアシスト。平和でフェアな社会を築くアシスト。
 サステイナブルな未来というゴールへ、あらゆる視点から考え挑み続けます。

愛する東京を、世界に誇れる街に。未来の世代に誇れる街に。
 FC東京は、あなたとともに躍動します。

FCTOKYO SOCIAL ENGAGEMENT OFFICE MESSAGE

社会連携推進室メッセージ

社会連携活動の将来の方向性

FC東京の社会連携活動は、SOCIAL STATEMENT『わたしたちのくらしの未来につながるゴールを』を道しるべに、ホームタウン東京に暮らすすべての方が安心して笑顔で過ごせる未来につながるアクションを進めています。子どもたちが安心して挑戦できる環境づくり、地域のつながりが深まる取り組み、そして東京全体で進める環境アクションなど、日々の活動にはその思いが込められています。

また、2024年からスタートした『TOKYO SOCIAL COLLABORATION(TSC)』では、社会連携活動をともに支えてくださるメンバーとともに、地域のみなさんや行政、企業の方々と手を取り合いながら、街に元気とつながりを生み出す活動を続けています。こうした積み重ねが実を結び、『チャレンジ!アウォーズ』で賞をいただけたことも、活動の輪が着実に広がっている証だと感じています。これからは、3つの柱①もっと前向きなエネルギーがあふれる街に②もっとあたたかいサポートに包まれる街に③もっとクリーンな空気や自然に恵まれた街に—に沿った活動を通じて、地域の方々と対話しながら、ホームタウン東京での取り組みをさらに広げていきたいと考えています。

FC東京と一緒に活動すると、街に笑顔が生まれ、子どもも大人も自然と前向きになれる。そんな風景を、東京の至るところで増やしていきたいと思っています。これからも地域とともに歩むクラブとして、みなさんとともに挑戦を続けてまいります。

東京フットボールクラブ株式会社 社会連携推進室長 須藤 義徳



TOKYO SOCIAL COLLABORATION

“TOKYO SOCIAL COLLABORATION”の活動

“TOKYO SOCIAL COLLABORATION”は、フットボールクラブ以上の存在になるために、ホームタウン東京に向き合い、社会的な価値を生み出すコミュニティとしての役割を果たしていきます。人と人、想いと想いをつなぐ“媒介”となり、地域に新たな連鎖やつながりを生み出すアクションを積み重ねていきます。クラブミッションを土台に、個が集まることで生まれる集合体としての強みと価値を、東京のまちの中でしっかりと体現していきたいと考えています。



▶ もっと前向きなエネルギーがあふれる街に

誰もがエネルギーを持ってチャレンジできる場を広げています。タイと日本のろうの子どもたちとの交流、あおあかドリルの多世代トライアル、不登校児を対象としたサッカー体験&スタジアム探検、ウォーキングフットボール体験交流会、そして『やさしい日本語』を取り入れたウォーキングフットボールなど、多様な人が前向きな一歩を踏み出せるプログラムを展開しました。スポーツが持つ力で、街に元気とエネルギーが広がる未来をめざしてまいります。



▶ もっとあたたかいサポートに包まれる街に

今年もジェネレーター会議で府中刑務所と再犯防止について意見交換を行い、TSCメンバーのアイデアから生まれた清掃用トングやコースターを『府中の日』で販売することができました。また、調布学園との連携や、戦後80年を迎えて平和記念資料館で学ぶ機会を作るなど、さまざまな交流を広げています。小さなつながりの積み重ねが、あたたかいサポートに包まれる街へと続くようにアクションをしていきます。



▶ もっとクリーンな空気や自然に恵まれた街に

TSCは『HEROs PLEDGE』に参画し、プラごみ削減の啓発やスタジアムのごみ計測を行い、環境への気づきを広げてきました。メンバー主体の地域清掃も年間を通じて実施し、街の環境を守る活動を積み重ねています。さらに、調布市環境フェアでは環境クイズのブースを出展し、飛田給自治会のみなさんとは地元野菜作りにも挑戦しました。サッカーがこれからも安全に楽しめる未来のために、環境への取り組みを一層加速していきます。



「NO PLANET, NO TOKYO」の開催

今年も地球環境や社会・地域の課題解決をテーマにした『NO PLANET, NO TOKYO』を開催し、ワークショップやフードドライブ・ブックドライブなどの社会連携イベントを行いました。9月23日(火祝)アビスパ福岡戦では、江戸時代のリサイクル文化をデザインに落とし込んだキッズTシャツの配布、あおあかドリル体験ステージの開催、オフィシャルパートナー企業の皆様によるSDGsの取り組み紹介や体験ブース出展、リユース容器を使った飲食提供なども実施しました。



くらしのサス活 presents FC東京×スポGOMI

『NO PLANET, NO TOKYO』の活動の一つとして、9月13日(土)に『くらしのサス活 presents FC東京×スポGOMI』を開催いたしました。スポGOMIとは、ゴミ拾いにスポーツの要素を加えて競技化した、環境に優しい日本発祥のスポーツです。イベントには公募で約60名の方々にご参加いただき、豊洲 千客万来を中心とした競技エリアで実施いたしました。お子さまから大人までの幅広い層の方が暑さに負けず楽しみながら、真剣にごみを探す光景が数多く見られました。

インクルーシブフットボール supported by インテリジェントウェイブ



今年も年齢、性別、障がいの有無などに関係なく、誰もが一緒にボールを蹴ることを楽しむイベントを開催し、多くの方にご参加いただきました。お互いを思いやりながらボールを通じてふれあい、自然と笑顔が溢れるイベントになっています。また今回はインテリジェントウェイブが共同で実施しているダイバーシティ&インクルージョン研修の一環として行われ、参加を通じて得られた社会的インパクトの評価を可視化するSROI(社会的投資収益率)検証事業の取り組みも実施しました。

障がい者向けスクール・クリニック



知的障がいのある子どもたちを対象に『あおぞらサッカースクール』や『あおぞらサッカークリニック』を開催しました。東京都内各所で定期的な活動も引き続き増やしていきます。

NO PLANET, NO TOKYO

ACTIVITY RESULTS / HOMETOWN TOKYO

行政等との活動実績・ホームタウン東京



味の素スタジアム
[住所] 調布市西町376-3
[収容人数] 48,013人

FC東京のホームタウンは『東京都』全域です。スタジアムを中心として株主としてもご支援いただいている6市(府中市・三鷹市・調布市・小平市・西東京市・小金井市)をはじめ、23区、そして島しょ部まで含めた都内全域でさまざまな活動をしています。

スタジアム STADIUM

ホームスタジアムである『味の素スタジアム』のほか、国立競技場でのホームゲームも開催しています。



国立競技場
[住所] 新宿区霞ヶ丘町10-1
[収容人数] 67,750人



FC東京直営フットサル施設
FC東京パーク府中
府中市宮町1-41-2 ミッテン府中屋上 TEL.042-314-1380



Jリーグ主催の『2025 Jリーグチャレン!アウォーズ』において、エントリーした全国58クラブの活動の中から、『NO PLANET, NO TOKYO』が描く未来、少年たちの夢を育む『HIGH HOPE』が『ソーシャルチャレンジャー賞』を受賞しました。2020年以来、2度目の受賞となりました。



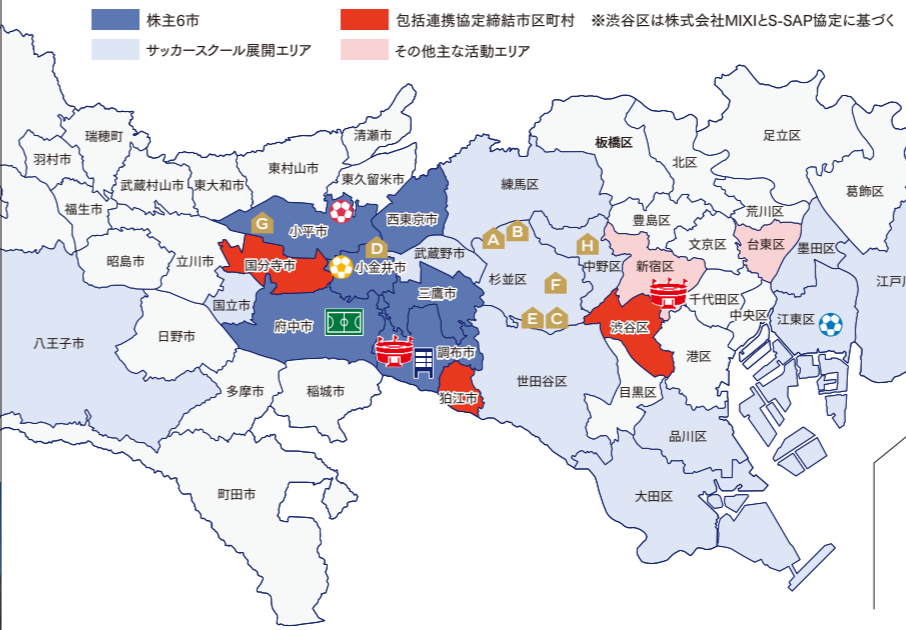
FC東京コミュニティジェネレーター 石川 直宏

HOMETOWN

FC東京の社会連携活動が 2025年度 Jリーグチャレン!アウォーズ 『ソーシャルチャレンジャー賞』を受賞しました。

『ソーシャルチャレンジャー賞』受賞に際しての想い

2016年から多摩少年院でサッカー教室を開催し、院内での交流がスタートしました。その後、小平グランドでの院外学習、選手たちが使用する用具の準備やピッチの整備等の職業体験の受け入れ、選手との対話機会など、『誰かのため』が自らの存在価値や存在意義を感じられる、社会との接点を生む活動を継続して行ってきました。活動の継続と『誰も取り残されない社会の実現をめざす』私たちの取り組みへの想いを評価いただき、2020年『チャレン!アウォーズ』での『ソーシャルチャレンジャー賞』受賞につながりました。そんな継続と信念の輪が重なった2024年秋、活動を通じて私たちが感じた思いと同じように、罪を犯した若者たちの思いに胸を打たれ、彼らに力強い希望を感じた株式会社一(ICI INC.)との『HIGH HOPE プログラム』が誕生しました。絶望から希望を生み、つづかれた可能性に光を灯すべく、スポーツ・サッカーという手段だけにとらわれない新たな取り組み。新しい事業の創造意欲に燃え、高いリスクに果敢に挑む起業家精神の姿勢『アントレプレナーシップ』を育むプログラムを通じて、よりリアルに自分を創造し、己の魂に光を灯すことが、誰かの魂の光を灯すという気づき。会話・対話・議論を積み重ね、味の素スタジアムでFC東京ファミリーのみなさまが手に取り、共感し、購入していただくための製品設計から販売、売上目標やその使い道までを伴走・実走。そのプログラム継続実施が評価され、2度目のソーシャルチャレンジャー賞受賞へとつながりました。大変名誉ある受賞ですが、私たちのチャレンジは続きます。FC東京のソーシャルステートメント『わたしたちのくらしの未来につながるゴール』に向かって、共感の輪を広げ、信念とアクションのパスをつなぎながら、『もっと前向きなエネルギーにあふれる街』にし、『もっとあたたかいサポートに包まれる街』へ。そんな街=ピッチで、誰もが自分らしく躍動できる姿で在り続けるために…



- 事務所 OFFICE**
- 調布事務所**
東京都調布市下石原1-2-3 TSOビル TEL.042-444-2630
 - 深川グランド** U-15深川
東京都江東区猿江2-15-10
 - 小平グランド** トップチーム U-18
東京都小平市大沼町3-14-1 東京ガス武蔵野苑内
 - U-15むさし

指定管理施設事業

DESIGNATED MANAGEMENT FACILITY
FC東京では地域社会と連携して、スポーツを通じて都民の心身の健康・コミュニティの発展に貢献するために、都内の公共施設の管理・運営に携わっています。



A TAC杉並区上井草スポーツセンター 杉並区上井草 3-34-1 TEL.03-3390-5707
B TAC杉並区妙正寺体育館 杉並区清水3-20-12 TEL.03-3399-4224
C TAC杉並区永福体育館 杉並区永福1-7-6 TEL.03-3328-3146
D 小金井市総合体育館 小金井市関野町1-13-1 TEL.042-386-2120
E 杉並区下高井戸運動場/区民集会場 杉並区下高井戸3-26-1 TEL.03-5374-6191(運動場) 03-5374-6192(集会所)
F 杉並区松ノ木運動場 杉並区松ノ木1-3-22 TEL.03-3311-7410
G 小平市民総合体育館 小平市津田町1-1-1 TEL.042-343-1611
H 中野区立平和の森公園・総合体育館 中野区新井三丁目37-78 TEL.03-5860-0024

ACTIVITIES



都内全域でおこなっているFC東京のホームタウン活動では、地域が元気になる、老若男女問わず一人でも多くの皆さんが笑顔になる活動を数多く実施するとともに、地域の課題解決に貢献できるクラブをめざしています。

- 地域との連携**
 - 東京都との連携**
2023年に東京都とワイドコロ協定を締結しました。本協定はスポーツ分野に限らず東京都の複数の政策分野にまたがって包括的・横断的な連携・協力を行うことにより地域社会の発展と都民サービスのさらなる向上を図るためのもので、スポーツチームとしては初の締結となります。協定を機に、東京都との関係を深化し、様々な取り組みを実施しております。
 - 自治体との連携**
自治体とはシーズンを通じて連携し、ホームゲームでの地域PRブース、地域住民を対象にした観戦招待企画、事業啓発における選手出演等の協力を実施。シーズン終了後には表敬訪問し日頃の支援への感謝とスポーツに限らず様々な分野での今後の連携を確認しました。
 - 街との連携**
街のイベントに東京ドロンパが参加したり、キックターゲットなどのアトラクションを実施するなど子どもたちに楽しんでいただきました。また都内各地では約4,500本の青赤フラッグが商店街などに掲げられ、商店街一丸となって応援いただくなど、様々な地域団体と連携しています。
- 教育現場との連携**
FC東京選手会が企画し実施している小学校訪問では今年も都内10市区の学校に訪問。たくさんの児童とふれあいました。また、小学校の体育教材となる『あおあかドリル』をクラブオフィシャルパートナーである帝京大学様のご協力により今年も作成。都内の約190の公立小学校、17,000人を超える小学1年生の児童に配布いたしました。

2025シーズンは87社のオフィシャルパートナー企業のみならず、スタジアム内外でのさまざまな活動を通してお互いの価値向上を図ってまいりました。

2025オフィシャルパートナー一覧



PARTNERS

パートナー活動事例

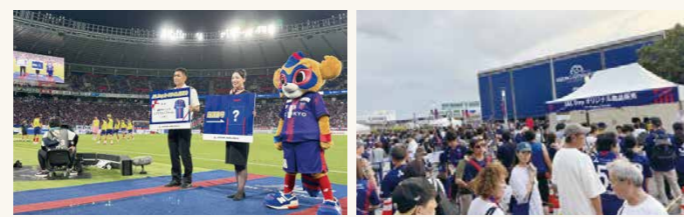
パートナーシップ活用事例の一部をご紹介します。これからも企業のみならずの協力を通じて、効果的なパートナーシップ活用を実現してまいります。



事例詳細はこちら



事例-1 アミノバイタル (味の素) 様
プロモーションへの選手起用
アスリートが持つ誠実で前向きなイメージを通じて、「応援もスポーツだ!」というブランドメッセージを印象的に訴求しました



事例-3 JAL (日本航空) 様
冠マッチ『JAL Day』
FC東京のホームゲームにおいてブランド名を冠したマッチデーを開催し、スタジアム全体を活用したプロモーション施策を行いました



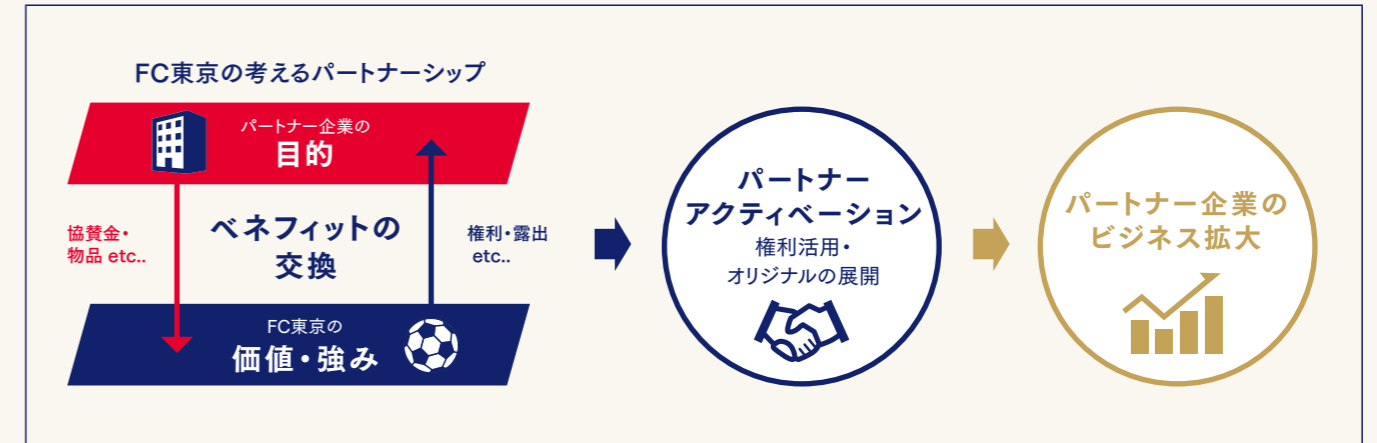
事例-2 ぐらしのサス活 (三井不動産レジデンシャル) 様
『ぐらしのサス活 presents あそぼう!まなぼう!サス活パーク』
『NO PLANET, NO TOKYO』の趣旨【地球の未来を考える】に沿って、子どもたちが遊びながら学べるイベントを開催しました



事例-4 ホスピタリティの提供
ホームゲーム来賓席やパートナー企業限定イベントの開催
重要顧客のご接待やクラブパートナーという共通項を持つ企業のみならずの交流の場として、多くの企業様にご活用いただきました

パートナーの考え方

2025シーズンも、パートナー企業のみならずが持つ課題や目的を深く理解し、それぞれに最適なカタチでパートナーシップをご活用いただくことを大切にまいりました。その結果として、各企業のニーズに合わせた柔軟なソリューションを提供し、単なる協業にとどまらない新たな価値を生み出すことができたと考えております。



SUPPORTERS

ファン指標

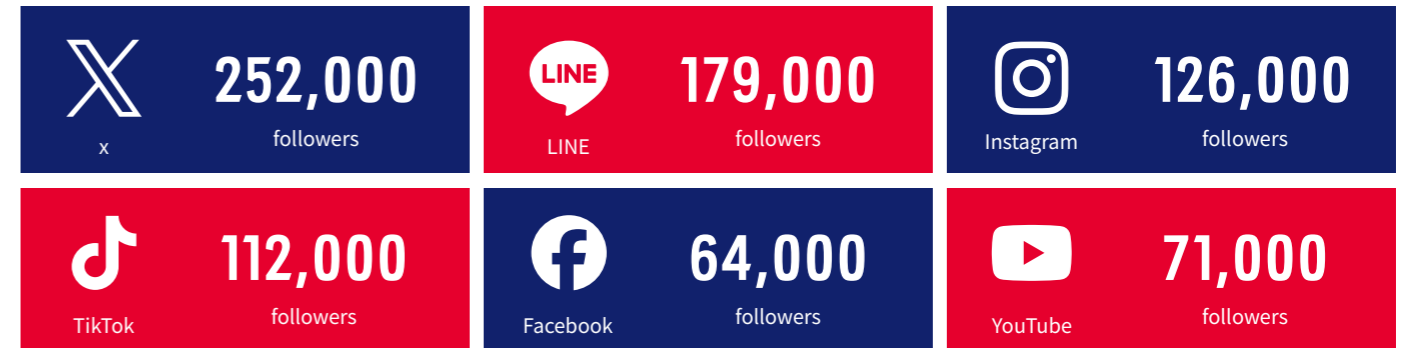
●JリーグID(無料会員)登録者数



●2025Jリーグ平均入場者数



●SNS フォロワー数



※2026年1月時点